

JRC2014 参加報告
-リチャードって何?-

JCHO 北海道病院 山口隆義

皆様、こんにちは。JCHO（ジェイコー）北海道病院の山口と申します。この度、全国の社会保険病院と厚生年金病院、船員保険病院の3つのグループが1つとなり、独立行政法人地域医療推進機構（JCHO: Japan Community Health care Organization）が発足しました。どうぞ、お見知りおき下さい。

学会は、4月10日の木曜日午後からスタートし、私が座長を担当する演題群も同日でしたので、学会開始から会場入りしました。そして、心臓セッションの最初の演題で、1番に質問をして参りました。おそらく「ジェイコー北海道病院の山口です」と、JRCの学会の場で初めて“ジェイコー”と言ったのは、私ではないかと自負しております。

ところで、私が座長を担当したのは「CT検査 心臓CT-アーチファクト低減-」でした。ここでは、GEヘルスケアのCT装置に搭載されているアプリケーションの評価に関する報告が4演題あり、その内2演題はバンディングアーチファクトを補正するアルゴリズムに関する評価でした。当院には、既にAquilion ONE ViSION Editionが導入されているので、バンディングに悩まされる事は無くなったのですが、64列相当のCT装置では問題ですね。これを、はやりの非剛体位置補正によってきれいに修復できるのは“あり”だと思われました。但し、補正されるのは、あくまでも血管だけで、周囲はスムージング処理のみである事に注意が必要です。さらに2演題は、これも注目のSnapshot Freezeですが、こちらはファントムによる評価が困難という事で、現在、ViCTORY (Validation of an Intracycle CT Motion CORrection Algorithm for Diagnostic AccuracY) trialがmulti center studyとして進行中で、結果が待たれる所です。今回の演題は、1施設からのデータによる発表でしたが、ある程度の診断能向上を見込めるようでした。

その他、ここ数年は逐次近似応用画像再構成法の画質評価に関する演題が多く、今年も同様の傾向でした。様々なファントムを用いて、各施設および各大学関連が競争している印象にも見えましたが、今回のポイントは“リチャードの論文”という事になりそうです。低コントラスト領域の鮮鋭度劣化を評価するのが1つの話題となっていました。今回の演題発表では、ACRファントムの円形モジュールのエッジを用いて評価する方法が新しい手法として提案されていました。これに対して、リチャードさんが既に報告している方法と同じではないかとの質問がありました。研究をする際には、過去の論文を参照して、自身の発表内容の新規性を確認する事が必要です。そこが欠けていた訳ですが・・・。基本と言われればそれまでですので、みなさん、十分に注意しましょう。また、電子ポスターのセッションではありましたが、Aquilion ONEシリーズのVersion 6.0であるFrontier Suiteに標準搭載されているSEMAR（シーマー）に関する演題群が組まれていました。評価方法は様々ですが、ファントム実験において金属からのアーチファクトは軽減され、その有用性は高いとの報告でした。当院にもSEMARが導入されており、金属配列の複雑さによって効果の程度が異なる印象はありますが、アーチファクト改善に大きく寄与しております。

春のJRCでは、ITEMでの展示も大きな魅力です。発表演題や講演も充実していますので、若い技師の皆様には是非参加をお勧めしたいと思います。但し、学術大会としてのレベル向上や国際化を目指しており、今後はハードルが高くなる可能性もあります。ですが、日常で感じている問題点を改善する発想と技量に関しては、日本のレベルは高いと私は思います。しかしながら、ファントムスタディまでは良いのですが、実際の臨床での評価に繋げている発表は、正直、殆ど無いのが現状です。これでは、“診療”と名の付く技術職としては、片手落ちではないでしょうか。北海道は、臨床医と診療放射線技師との距離が近く、他の地域では出来ない取り組みが実現できる可能性があります。また、このENYUKAI世話人も、やさしい!? 人ばかりです。色々トライしたい皆様、是非ご相談下さいね。